

平成28年度 事業報告書

ケアハウス大慈

1. 《平成28年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《ケア理念》

「手から手へ 忠恕（真心）を込めて」

3. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、ご自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

4. 《最終目標》

●いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔。

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します。)

- ・生きがい・やりがいを大切にします。
- ・自分らしさを大切にします。
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気を大切にします。
- ・みんながしあわせになることを目指します。

●中期目標

- ①ケアハウス大慈の理念や方向性を周知する。
- ②ケアハウス大慈「らしさ」を共有し、みんなで作り上げていくという風土を作る。
- ③スタッフが福祉職ということやケアハウス大慈に勤めていることに誇りを持てる様にする。

●平成28年度重点目標

- ①各フロア・部門の予定を職員全員が把握し、予定・計画に基づいた業務の執行を行う。
- ②ゲスト・スタッフそれぞれの「満足感」を確立し、顧客・人材の確保に務める。
- ③地域との繋がりを強化し、身近な社会福祉施設としての認知を拡げる。

5. 《部門別重点目標》

<ケア部門>

① 考える介護の実施

A) 考える介護への環境整備 《遠藤メソッドの導入(3年計画)》

- ・遠藤メソッドを基に、介護技術標準を策定しマニュアルの見える化を実現する。
- ・ケアハウス全体会議にて各委員会からの報告を実施することにより、今ある情報を整理、問題解決できる機能を確立する。

- ・マニュアルでは網羅できないゲスト一人一人のサポートにおいてアセスメントシートを活用することにより、サポートの見える化を図り統一する。
- ・ゲストの思いを大切に、実現することでケアハウス大慈であるからこそ可能なユニットケアを実施する。

遠藤メソッド、委員会の進め方においては、ケアを勧めていくうえでの留意点を中心に現段階では整備中である。

マニュアルやゲストの思いにおいては、ライフプランにあげていく事により見える化を図る事が出来ており、個別ケアの体勢を見直し整えることが出ている。

B) 考える介護へのスタッフ育成

- ・ゲストの思いや人生を反映し、人物像が浮かぶポジティブライフプランの作成を行う。
- ・ゲストのニーズや生活歴を把握し、ライフプランに繋がる記録の徹底を基に、モニタリングを実施。それによりプランだけではなく生活全般を見直し、個別サポートへの理解、考察力を養う。
- ・内部研修や外部研修への参加、他職種との情報共有を行うことにより最新の情報が得られる環境を整える。
- ・定期的な面談を実施することにより、目標管理を徹底し、職員の意識や行動を変え、抱えている課題や問題を解決する機会を増やす。
- ・業務毎に責任者を配置することにより、職員一人一人がチャレンジできる場面を増やす。

ライフプランに繋がる記録の作成においては、まだまだ不十分な点が多いため、考察や記録の方法の見直しが必要である。サービス担当者会議にて、ゲストの思い入れの強い事柄などをご家族に尋ねプランに組み込むことにより、ニーズにより深みを出すように勧めていくことができた。責任者をリーダー、サブリーダー以外にも持たせることで、職員一人一人の意識を変えていくことがチャレンジに繋がると考え、実行していった。

② 更なるサービスの向上

A) マナー向上

- ・神戸市老人福祉施設連盟主催の接遇指導者研修等を活用し、サービス業従事者としてのマナー・接遇の学習を行う。

平成28年度神戸市老人福祉施設連盟主催の接遇指導者研修に2名参加。今後、研修参加者によるマナー・接遇に関する研修を施設内で実施していく。

B) 介護技術・知識の向上

- ・平成29年度に神戸市老人福祉施設連盟主催の第三者評価の受審を目指し、施設内の体制を整える。
- ・施設内において介護技術勉強会（知識の取得・介護技術の取得・想像力の取得）開催。
- ・フロア単位での学習会も定期的実施する。

介護技術においては理学療法士を中心として移乗・移動方法などのOFF-JTの実施、その他の勉強会も開催する事ができた。しかし施設内で記録方法等の統一を図ることができておらず、施設内の伝達方法の確立が必要と思われる。

<経営部門>

①在園率95%以上、在籍率97%を維持する

- A) 各部署と協同してゲストの疾病予防対策・健康管理を行い、入院が避けられるよう健康の維持を図る。

1年間の延べ入院者数は36名（平成27年度は28名）。状態の悪い方が複数回入院をされることが多く、延べ入院者数は増えている。内、長期入院となる骨折による入院者数は5名（平成27年度は3名）。となっている。転倒等が原因の骨折による入院は避ける事ができるため、転倒防止等の対策を更に講じる必要がある。

- B) 入院者が必要最小限の入院期間で退院できるよう、病院と連携し情報の交換に努める。

年間の1日あたりの平均入院者数は3.9名（平成27年度は4.1名）。入院期間は19.1日（平成27年度は19.7日）と、1日あたりの入院者数と入院期間は若干であるが減っており、医療機関との密な連携を行った成果がでていいると思われる。

- C) 待機者の確保に努める。

●見学者の増加

- ・相談員だけでなくフロアのリーダーも見学の際の説明ができるようにし、突発的な見学にも対応する。
- ・チェリッシュ（レストラン）やシアタールームを地域の方々に開放し、ケアハウス大慈の認知度を上げる。

●見学者から待機者へ

- ・見学者、相談者に対し定期的にお困りでないか連絡を入れる。
- ・ケアハウス便りを発行し（1回/2M）事業所に配布する。
- ・地域との交流の場所に積極的に参加する。

新聞広告や折込広告の配布により施設見学会を実施した。見学者数は少ないが、見学後に体験入居を実施しての入居契約に繋がるなど、入居数の増加は図れた。ケアハウス大慈を知っていただくという目的は、達成できつつあり今後も継続していく。

②人材確保と育成

- ・老人部門全体で協力し合い、求人媒体の利用や学校訪問等を実施し人材確保に務める。
- ・現状のOFF-JTを見直し、施設内研修の充実を図る。
- ・勤務内容・形態の見直しにより有給休暇の取得率向上を目指す。

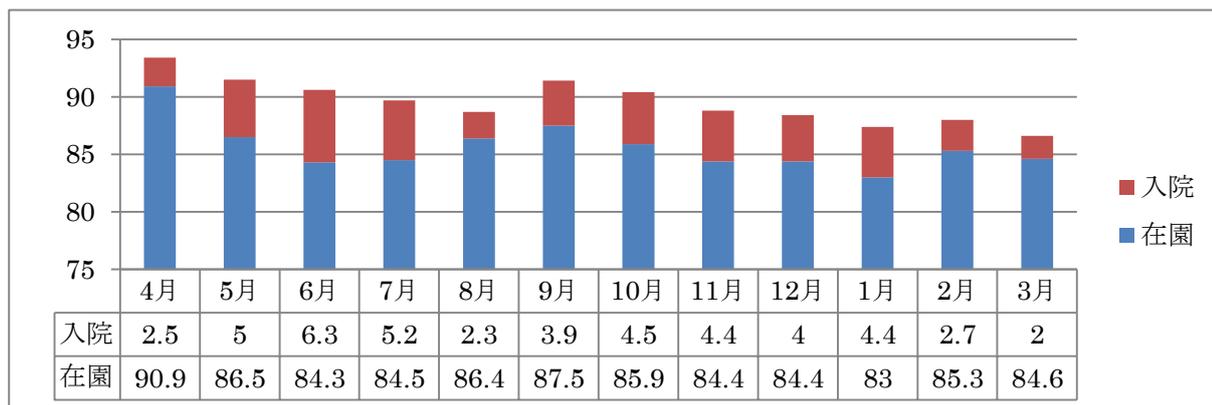
平成28年度新卒採用は3名、平成29年度新卒採用は4名と毎年新卒採用は行えており、学校訪問等の成果が出ていると思われる。施設内研修については参加者し易いよう、現状のOFF-JTの実施曜日を変更したが、内容の見直しには至っていない。有給休暇取得率についてはフロアにより取得のバラつきがみられた。有給休暇を取得する為に他職員の時間外労働が発生する事もあり、効率的な人員配置が必要と思われる。

③加算取得により収入アップを目指す。

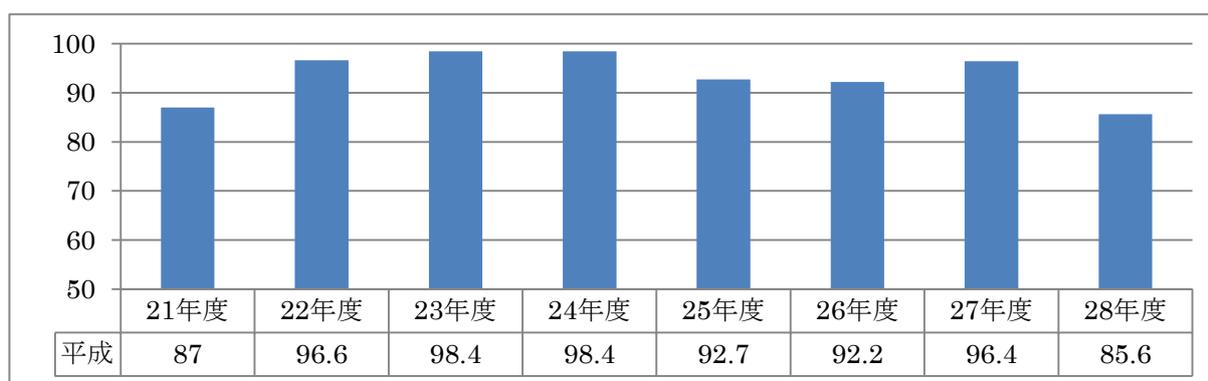
- ・サービス提供体制加算Iロ（介護福祉士資格取得割合50%以上）を取得し増収を目指す。
- ・介護福祉士資格取得の為に勉強会を施設内で開催する。

平成28年8月より介護福祉士国家資格の取得者割合が50%を割り込み、加算取得はできなかった。また、介護福祉士国家資格の受験資格の変更により平成28年度に受験を行う対象の職員がおらず勉強会の開催はできなかった。

●平成28年度月別充足率表



●年度別充足率推移



●介護度別年齢別等人数表

平成29年3月31日時点での在籍数

最高滞在期間：8年8か月

*要支援1は0.375、要支援2は1として計算

要介護度	平成27年度				平成28年度			
	合計人数	男性	女性	平均年齢	合計人数	男性	女性	平均年齢
非該当	4	2	2	85.5	6	4	2	88.3
支援1	9	4	5	86.3	9	5	4	88.3
支援2	8	1	7	85.1	9	3	6	88.7
介護1	19	5	14	86.7	14	3	11	88.4
介護2	16	3	13	89.3	17	4	13	88.6
介護3	15	5	10	87.8	14	2	10	88.7
介護4	12	2	10	89.2	14	4	10	89.7
介護5	12	1	11	90.2	6	0	6	88.5
合計	95	23	72		87	25	62	
平均介護度	2.24	1.77	2.40		1.92	1.51	2.33	
平均年齢		87.5	88.0	87.7		87.9	88.5	88.3
最高年齢		99	101			97	101	
最小年齢		73	76			74	77	

<栄養科>

‘自分だったら’と考えられる厨房になる。

① おいしく、笑顔になれる食事の提供

- ・食材をきざむことなく、常食・ソフト食・スルー食・ミキサー食（ゼリー）など、すべての方が何を食べているのかが分かり、食べたいと思える食事の提供を継続する。
- ・細かいゲストの要望に応えられるように、一人一人の好みを把握する。
- ・厨房の業務を見直し時間を作ることで、副菜のニーズに応える。
- ・配膳方法を見直し、食事をより美味しく召し上がっていただけるような提供を行う。

今までは別盛りゲストの温主菜の上に乗るネギや生キャベツ等は、早めにのせて温蔵庫に入れていたため、配膳される時には熱で色合いが悪く食感が無くなったりしていたが、現在はフロアで盛りつけたり、厨房で直前に盛ることで見た目や食感が良いまま提供できるようになった。食事量が少なくなったゲストには、副菜のみスルーや調理法によって魚のみミキサーや魚のみソフトに変更するなどの細かな対応を行なうことで、食事量増加に繋げることが出来ている。全てのゲストの好みに合わせ、代替えや食事変更を積極的に行っている。

② 食事や食事行事について、チェリッシュ委員会や担当者会議にて、スタッフ同士の意見交換がスムーズに行えることで美味しい食事の提供を行う

- ・ゲストの満足度を調査し（年2回）、おいしい又は満足と答えて下さる方を全体の75%以上を目標とする。
- ・今まで提供していなかった要望の多い刺身や軟らかい肉などメニューを行事食・特別食として取り入れる。
- ・郷土料理など、季節を感じていただける行事食や、月に1度は新しいメニューを取り入れる。

11月に行った食事に関するアンケートでは、全体の満足度が目標の75%を下回る69%と目標を達成できなかったが、前回よりも満足度が2%と向上した。色使いや提供方法を見直した点、新メニューを取り入れた点が満足度の向上に繋がったと考えられる。今後もゲストや施設のスタッフからの食事に関する聞き取りを行い、細やかな対応をすることで次回は目標を達成したい。ティータイム・お食事会の満足度が向上したことに关しては努力が実ったため、引き続きゲストの満足度向上に努めたい。

③ 栄養面を考えた食事の提供とサポート方法の提案

→栄養面や安全面を考えた食事の提供とサポート方法の提案。

- ・食事サポート方法や嚥下について研修会等に参加して学び、個々のゲストに合ったサポート方法を介護スタッフへ提案する。
- ・よりスムーズに安心・安全に喉を通り、必要な栄養量を確保できる食事を提供する。
- ・スタッフに大慈園で提供している食事についてもっと理解してもらう。

チェリッシュ委員を中心に、食事量が減少しているゲストの食事変更や好み等詳しく話し、より安全で美味しい食事の提供をしてきたが、決定的な解決策が提案できず、様子を見るといった方法しか出来ていないこともあった。今後は外部研修に積極的に行くことで専門的な知識を得て、ケアハウスで食事の研修が行えるようにしていきたい。

●行事表（栄養科実施）

月	日	行事名	月	日	行事名
4月	3	家族会(お菓子バイキング)	10月	10	2.3.6F ティータイム
	8	4FBBQ		19	鯛焼き移動販売
	11	2.3.6F ティータイム		25	4.5F ティータイム
	20	鯛焼き移動販売		30	ケア祭り
	26	4.5F ティータイム	11月	15	鯛焼き移動販売
5月	5	子供の日		17	奇数月チェリッシュおやつ作り (スイートポテトパイ)
	8	母の日		21	3F お食事会 お菓子移動販売
	10	奇数月チェリッシュおやつ作り (若鮎作り)	12月	17	高校生ボランティアお菓子作り
	16	お菓子移動販売		19	4F クリスマスメニュー
	17	4F 柏餅作り		21	3F クリスマスメニュー 鯛焼き移動販売
	18	鯛焼き移動販売		22	6F クリスマスメニュー
	23	3F チェリッシュお食事会		25	クリスマスメニュー
	24	5F 広島焼きパーティー		27	餅つき大会
6月	3	4F チェリッシュお食事会		31	年越しそば
	4	高校生ボランティアとおやつ作り (どらやき)	H.29 1月	1	おせち
	9	6FBBQ		7	七草粥
	12	介護食スイーツ作り		11	4F チェリッシュお食事会
	13	2.3.6F ティータイム		16	お菓子移動販売
	19	父の日		18	鯛焼き移動販売
	21	2F チェリッシュお食事会 5F あんみつ作り		19	すなつくちいちゃん
	24	鯛焼き移動販売		24	鏡開き
	28	4.5F ティータイム	2月	2	6F 豆まきお菓子
7月	1	8周年記念バイキング		3	節分
	4	3F 流しそうめん		8	2.3.6F ティータイム
	7	七夕		14	バレンタインデー
	18	お菓子移動販売		18	2F おでんバイキング
	20	鯛焼き移動販売		20	5F チェリッシュお食事会
	28	5F チェリッシュお食事会		22	3F クレープパーティー 鯛焼き移動販売
	30	土用の丑の日		28	4.5F ティータイム
8月	8	2.3.6F ティータイム	3月	3	ひなまつり 奇数月チェリッシュおやつ作り (3色団子) 4F 苺大福作り
	12	児童館交流会クッキー作り		6	見学説明会(ケア食事紹介)

	18	すなっくちいちゃん		8	鯛焼き移動販売
	19	2F アイス作り		14	ホワイトデー
	22	鯛焼き移動販売		15	にぎり寿司パーティー
	23	4.5F ティータイム 地藏盆		19	家族会(お菓子バイキング)
	29	5F 手巻き寿司パーティー		20	お菓子移動販売 2F 苺大福作り
9月	8	6F かき氷パーティー		21	5F 焼きそばパーティー
	14	2F チェリッシュお食事会		23	3F お好み焼きパーティー
	15	十五夜		22	家族会(お菓子バイキング)
	19	敬老の日 お菓子移動販売		28	子供参観おやつ提供
	21	鯛焼き移動販売		30	6F チェリッシュお食事会
	22	4F おでんバイキング			
	27	奇数月チェリッシュおやつ作り (スイートポテト作り) 焼き芋パーティー			
	30	屋台バイキング			

<看護部>

① 生きる事に喜びをもてるよう、サポートを行う

●健康である事をサポートする。

- ・肺炎予防、尿路感染症予防、褥瘡予防、脱水予防に取り組む。
- ・感染症発症時の対策の強化を行う。
- ・外部受診時にスムーズな連携を行い対応する。
- ・ゲストとのコミュニケーションを密に図り不安やニーズを把握する。

水分摂取量や食事摂取量、日常の生活の様子を把握し診療予定に沿って診療補助業務を行い、ゲストの健康管理を行なった。

外部受診時必要時は、フロアスタッフと連携し対応できた。

ゲストと多くコミュニケーションをとり、不安やニーズを把握することができた。

② ゲストが人生の最期を迎えるにあたり最良の選択ができるサポートを行う

- ・ゲスト個々のリビングウィルの作成を行う。
- ・看取り期におけるケアカンファレンス時の家族との連携の強化を目指す。
- ・看取り期の介護の質の向上を目指す。

ゲスト個々のリビングウィルを作成した。3ヶ月毎のケアカンファレンスに参加し家族との連携を強化した。また、看取り介護の質の向上のためにスタッフともカンファレンスを持ち、ケア向上を図った。

[年間業務]

月	項目	内容
5月	ゲスト定期検診	胸部X線・採血
6月	スタッフ定期検診(全職員)	胸部X線・採血・検尿・検便・身長・

		体重・聴力・視力 心電図、腰椎X線（CWのみ）
10月・11月	ゲスト・全スタッフ	インフルエンザ予防接種
1月	職員定期検診（CWのみ）	採血・腰椎X線・検尿・聴力・視力 身長・体重

[往診・受診]

曜日	午前・午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	平山尚哉	歯科	毎週
火	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	隔週
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
土	午前	坪内淳一	内科	毎週

※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診

※外部主治医往診可能

<理学療法科>

① ケアの質向上に資する取組み

- 24時間×365日のケアを意識し、全てのサポートをゲスト・スタッフ双方にとって優しいサポートとなるように修正・提案する。
 - ・現場でサポート方法を確認し、口頭・書面にてサポート方法を伝える。
 - ・定期的にサポート方法OJTを実施し、スタッフが現場で活かせる知識を提供する。

移乗・移動方法に関する修正・提案、また臥床時のポジショニング管理の改善をOJT形式で全フロアにて行う事ができた。また、必要な場合は書面にてその方法を伝達し、全てのスタッフがサポートを統一できるようにした。

- コミュニケーション方法・福祉用具の使用促進・生活環境での調整を現場と行う。
 - ・ユマニチュード等、認知症の方とのコミュニケーション方法を積極的に活用する。
 - ・各委員会での報告・確認を密に行う。

認知症の持つゲストとの機能訓練はユマニチュードの手法を基に関わり、ご本人の持つ力を引き出すサポート方法を探し出せるように努めた。また、福祉用具は移乗ボードを導入することができ、看取り対応となったゲストと関わるスタッフの移乗サポートの負担を減らすことができた。

② ゲストの活動量増加に対する取組みを充実させる

- 現状の機能訓練体制を維持し、機能訓練を通してゲストの活動量を増やす。
- 体操など、ゲストが活動できる場を作る。

機能訓練の提供体制は概ね40人を超える事ができ、物理療法実施者も含めると約50人のゲストが機能訓練実施を維持できている。フロア体操は全フロア週1回実施し、各フロア10名以上の参加を維持できるようにした。

6. 《行事の実施内容・反省点》

○買い物ツアー

→各フロアの特徴に合わせて企画、毎月と各月に行うフロアに分かれ実施

○映画上映会

→フロアごとにシアタールームを活用

○シルバー体操

→毎週水曜日に講師の先生により実施、楽しく運動が出来るとの事で好評である

○フラワーセラピー

→参加ゲストが決まっており、お誘いするが参加人数は一定となっている。

○ミュージックセラピー

→毎月、講師の先生により季節に合った歌を歌ったり、体を動かしたり、ビデオで思い出しながら歌うなど、毎回、飽きないように工夫して下さっており好評である。

○絵手紙

→100円で参加できるというお手軽さであるが、参加人数が多くて10名程度となっている。

●行事表（フロア実施）

月	フロア	内容
4月	2F	西神中央で開催されている桜まつりに参加する。春の雰囲気を楽しんでいただけた。ゲスト全員の笑顔を見ることが出来た。
	3F	しあわせの村へ花見外出を行う。レストランにてお食事を召し上がり、その後、日本庭園を散歩。お天気にも恵まれ「気持ちがいいね」と満足していただけた。
	4F	敷地内の桜の木を眺めたあとにケアハウス敷地の庭園でバーベキューを行う。焼き立てのお肉にとっても喜ばれていた。
	5F	加古川まで焼肉を食べに行き、その後、お花見に出かけた。美味しいお肉を食べて「美味しかったわ、また行きたいね」と喜びの声が聞かれた。
	6F	垂水健康公園へお花見外出をする。弁当を持参し、桜の下で召し上がられる。「外で食べるのもおいしいね」と楽しんでいただけた。
5月	2F	須磨水族園に行く。直接イルカなどに触れることも出来、積極的に触れる方、思いの他怖がられる方、色んな表情を見ることが出来た。「帰りたい」と不穏になるゲストもおられたが、普段傾眠のゲストが生き物と触れ合う際は、しっかり覚醒されており良かった。
	3F	チェリッシュにて食事会を実施。
	4F	フロアでゲストと一緒に柏餅を作ってみんなで食べる。
	5F	フロアで広島焼きを作り、召し上がっていただいた。普段全量召し上がられない方も「美味しい」と言われ全量召し上がっていただけた。
	6F	くら寿司へ回転寿司ツアー外出。普段召し上がることの少ないお寿司を食べられ「やっぱりお寿司はいいね」と満足される。
6月	2F	チェリッシュにて食事会を実施。
	3F	すし官太へお寿司を食べに外出する。普段召し上がることの少ないお寿司を召し上がられ、「やっぱりお寿司は美味しいね」と喜ばれていた。
	4F	チェリッシュにて食事会を実施。

	5 F	あんみつ作りを行った。「白玉が美味しかった」、「次はアイスクリームが食べたい」等、色々な声が聞かれた。
	6 F	園庭にて焼肉パーティー実施する。バーベキューのような雰囲気野菜やお肉を召し上がっていただく。「炭火はいいな」と満足される。
7月	2 F	コメダ珈琲に3日間に分けて外出に行く。普段、水分量が少ないゲスト・自力摂取がすすまないゲストもパクパクと自ら食べられ、「おいしい」と言葉を聞く事が出来た。
	3 F	フロアにてそうめん流しを行う。短冊に願い事を書いていただき笹に飾った。それぞれの願い事を書かれ楽しめる。
	4 F	オペラ歌手とピアニストのご家族を招いてコンサートを行った。素敵な歌声とピアノに大きな拍手をされ、ピアノに合わせてダンスを職員として喜ばれていた。
	5 F	チェリッシュにて食事会を実施。
	6 F	七夕の行事を行う。フロアでフルーツポンチを作り、その後短冊に願いを書いて笹に飾った。
8月	2 F	フロアでアイスクリーム作りを行うゲストに調理に参加をしてもらえよう企画をしたが、男性ゲストには参加を促せなかった。女性ゲストは、全員ではないが積極的に参加していただけた。
	3 F	コメダ珈琲外出する。シロノワールを注文され「わあ、大きいね。食べれるかしら」と喜ばれていたが、ほとんどのゲストが「美味しい」と完食されていた。
	4 F	コメダ珈琲へ行き、お好きなかき氷と飲み物を楽しんでいただいた。季節限定のかき氷を選ばれ、「こんな大きなかき氷食べれない」といわれながらも完食されていた方もおられた。
	5 F	手巻寿司をご自分で巻いて楽しんでいただいた。「巻き寿司なんて作るの久しぶり」、「みんなで作ると楽しい」と笑顔でお話をしながら作っておられた。
	6 F	フロア行事ですなっくちいちゃんを実施。
9月	2 F	チェリッシュにて食事会を実施。
	3 F	道の駅みきへ買物・外食ツアーに行く。レストランにてお好みの物を頼まれ舌つづみをされる。その後、道の駅にて買物。「安いね」とたくさんお菓子を購入されていた。
	4 F	おでんを7種用意した。お好きなおでんを選んでもらう、みんなでおでんをいただいた。「おいしいね」と普段食事をあまり食べられない方もおかわりをされ喜んで下さった。
	5 F	王将に外食に行く。初めて食べたゲストもおられたようで、「美味しいわね」、「楽しかったよ」、「また行きたい」と言われる声が多く聞かれた。濃いめの味付けが好評の様子だった。
	6 F	フロアにてかき氷パーティーを行う。お好きなシロップ、トッピングを選んでもらい楽しめる。
11月	2 F	ほうらく堂・農業公園へ外出に行く。ゲストからご家族へ話をされ、「また連れて行ってあげて」との家族からの声もあった。女性は化粧・アクセサリーを身に付け外出。言葉の少ない認知症のゲストは、後日になっても「ぜんざい!」「また行くの?」と覚えておられ、外出がきっかけで家族

		にぜんざいを持って来ていただき普段の楽しみに繋げることとなった。
	3 F	チェリッシュにて食事会を実施。
	4 F	寿司官太へ行ってお寿司を食べていただく。メニューを見て「これこれ」と指をさして注文され大変喜ばれていた。
	5 F	フロアで鍋パーティーを行った。「肉が柔らかくて、とても美味しかった」、「味付けが良かった」と喜びの声も聞かれたが、「カニが少なかった」といった声もあったので、次回鍋をする際は検討したい。
	6 F	ほうらく堂まで外出にでかける。到着後、饅頭やぜんざいを召し上がられる。「まんじゅうなんぼでも食べれるわ」と満足していただけた。
12月	2 F	クリスマスパーティーを行う。歌を歌いクリスマスケーキを食べプレゼントをお渡しした。
	3 F	フロアにて全ゲスト参加のクリスマス会を実施。ビンゴゲームを行い「こんなん初めてしたわ。楽しいね」と喜んでいただけた。
	4 F	クリスマス会を行う。クリスマスプレゼント、クリスマスケーキ、鍋料理を用意し、喜んでいただいた。
	5 F	クリスマス会を行う。ケーキ、プレゼントを準備して楽しんでいただいた。プレゼントをお渡しすると、「綺麗な色やね」と笑顔で話されるなど喜びの声が聞かれた。
	6 F	クリスマス会としてチェリッシュにて食事会を実施。その後、フロアにてジャグリングや手品、ビンゴゲームを行った。プレゼントもお渡しし「こんなん貰っていいの?」と大変喜ばれていた。
1月	2 F	お正月遊びをする。福笑いの出来を見て爆笑、羽子板は、円になり立ち上がったたりしゃがまれたりしながら身体を動かされていた。
	3 F	実施無し。
	4 F	チェリッシュにて食事会を実施。
	5 F	諏訪神社へ初詣に行き、西神南の喫茶店でコーヒーを飲んでいただいた。日頃、外出されないゲストにも参加していただき、喫茶を楽しんでいただいた。「甘くて美味しいわ」との感想をいただけた。
	6 F	フロアにて書き初めと茶話会を行った。抹茶等を用意し楽しくお話し書き初めをされていた。
2月	2 F	おでんパーティーを行う。普段ミキサー食のゲストも大根などを食べられ、食事がすすまないゲストもかぶりついて食べられていた。
	3 F	フロアにてクレープパーティーを開催。クレープにお好きな果物、クリーム、アイスのをせ召し上がって頂いた。「こんなん食べた事ないけどおいしいね」と満足される。
	4 F	節分の行事を行う。鬼に扮したスタッフに紙で作られたボールを投げる。「鬼は外～福は内～」と声を出され笑顔が多くみられた。
	5 F	チェリッシュにて食事会を実施。
	6 F	フロアにて鬼退治を行った。スタッフが鬼に扮し、ゲストがお手玉で鬼退治を行った。大きな声で「鬼は外!」と元気いっぱい叫ばれていた。
3月	2 F	フロアでゲストと一緒にいちご大福を作る。
	3 F	フロアにてお好み焼きパーティーを開催。自らお好み焼きを焼かれ「なかなかいける。美味しいわ」と楽しまれていた。
	4 F	フロアでゲストと一緒にいちご大福を作る。「みてみてこれは私が作った

		やつ美味しいでしょ」と嬉しそうに話され、満足な様子であった。
	5 F	フロアにて焼きそばを作り召し上がっていただいた。「久しぶりの焼きそばやから美味しい」、「やっぱりソースものの味付けが好き」等、かなり好評の声が多かった。
	6 F	チェリッシュにて食事会を実施。

*10月は感謝祭のため、フロアでの行事は実施せず。

7.《会議の実施内容》

①チェリッシュ委員会（毎月）

→ケアハウス大慈の食事をより良いものにするを目的とし、全体の行事食やおやつ作り、スナック等の行事を企画している。また、毎月ゲストの体重や食事摂取量から、変化を発見し対応を検討している。

②行事委員会（毎月）

→恒例行事（感謝祭・餅つき）の開催に向けて企画を立案し、実施した。また、大慈広報委員会にも参加し、法人全体で連携を図り、行事の運営を行った。

③感染防止対策委員会（毎月）

→嘔吐時対応マニュアル作成、嘔吐時の行動フローチャート作成、嘔吐時のマニュアル作成
感染についての職員研修を行った。

④RM委員会（毎月）

→今年度は、ドキドキ報告書の継続的な増加、内容の充実に向けて取り組んだ。しかし前年度に比べ、報告件数の減少が見られた。来年度は書式を変更し内容の充実を図る。

⑤褥瘡検討・身体拘束廃止委員会(毎月)

→褥瘡検討においては、看護師を中心に褥瘡の状況説明を実施、対策の再検討を行った。身体拘束は不適切なケアも含めて振り返り、センサーマット設置など、施設としての在り方を策検討した（毎月、フロア会議で見直している）。

⑥設備・災害委員会（隔月）

→災害に関しては月1回の消火訓練の実施は実行できていないが、年2回のOFF-JT・総合訓練を実施し、以前からの課題である連絡の取り方、内線・無線の使い方についてのチェックを行った。

2ヶ月に1回の実施により、各階の設備関係の報告、今後気をつけるべきことの共有を図り対策を立案した。

⑦入浴・排泄委員会（偶数月）

→浴室を管理維持、スムーズな業務が行えるよう、快適な入浴サポートが提供できるようスタッフからの意見を集め改善に努めた。

⑧サービス向上委員会（毎月）

→接遇面における改善を中心に見直していき、毎月、接遇アップのスローガンを各フロア持ち回りで考えて策定し、意識改善に努めていった。また、苦情相談の内容を検討し、施設内で再度共有する事から再発防止に努めた。

⑨エコ・節約委員会（不定期）

→エコキャップを継続して回収・送付し、神戸市老人福祉施設連盟に報告を行った。

⑩看取り介護委員会（毎月）

→看取りを行ったゲストの看取り後カンファレンスシートを導入し、各フロアで行なったカンファレンスの報告を委員会で行い内容を再検討した。OFFJTでは、臨終期のケアのデモンストラクション等を行うことでスタッフの看取りへの理解を深め、臨終期への不安が軽減できた。

⑪労働衛生委員会（毎月）

→労働環境のチェックと腰痛予防への取り組みを行った。職員健康診断を通して職員の健康の保持増進に努める。次年度より、ストレスマネジメントへの取り組みを開始する。

⑫大慈な会議（毎月）

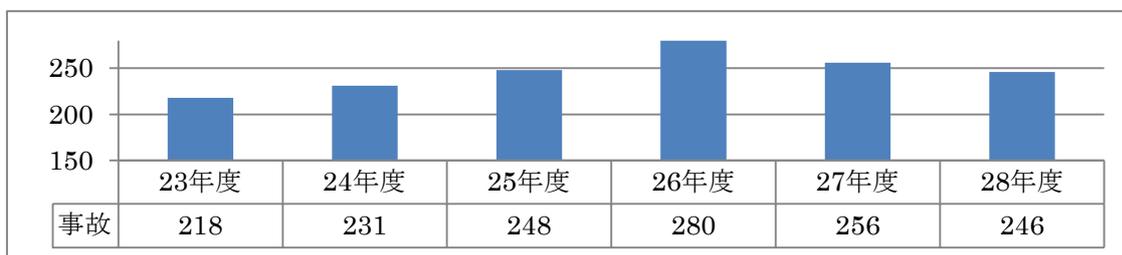
→施設長・副施設長・相談員・リーダー・サブリーダー・各部署代表が集まり、情報の交換・報告・連絡・相談を行った。

8. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

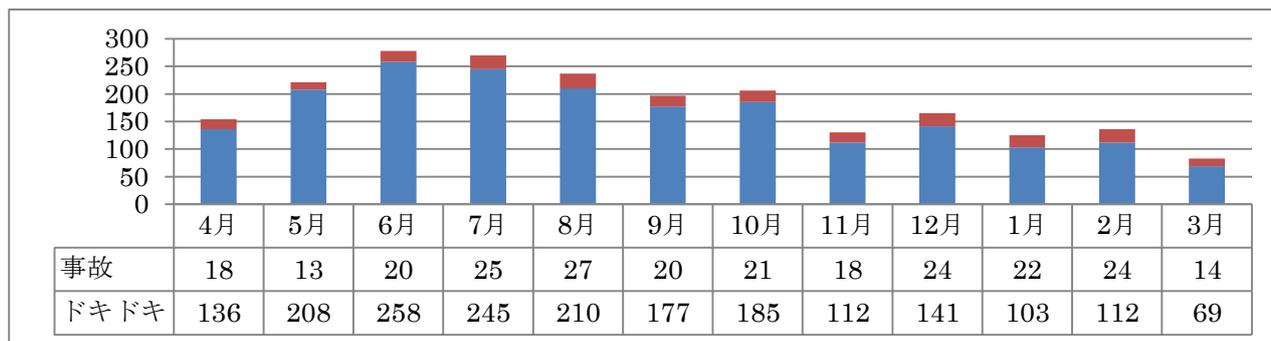
今年度は、ドキドキ報告書の継続的な増加、内容の充実に向けて取り組んだ。しかし前年度に比べ報告件数の減少が見られた。入居ゲストの減少や、新人職員または経験年数の短い職員の増加により、危険予知能力に差があったためと考えられる。



平成27年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	2,838 件	256 件	2,582 件		2,202 件	246 件	1,956 件

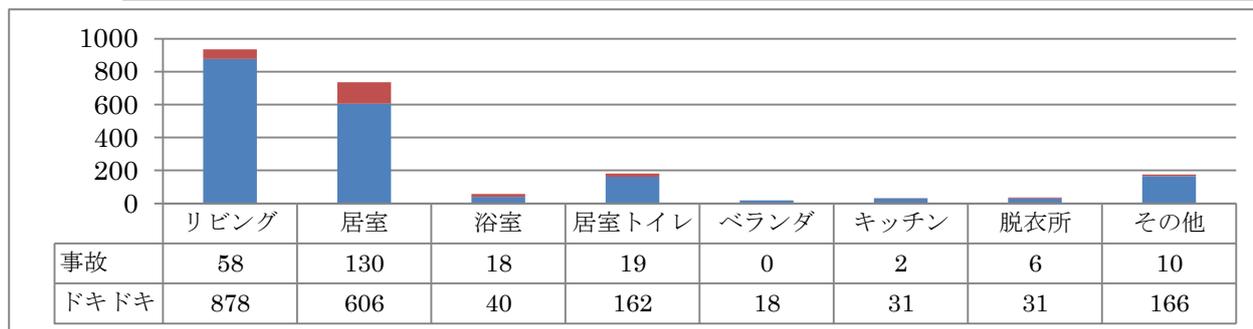
○内訳

平成27年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	449 件	98 件	351 件	2F	373 件	111 件	262 件
3F	654 件	26 件	628 件	3F	571 件	38 件	533 件
4F	500 件	27 件	473 件	4F	452 件	19 件	433 件
5F	291 件	74 件	217 件	5F	265 件	42 件	223 件
6F	944 件	31 件	913 件	6F	578 件	39 件	539 件



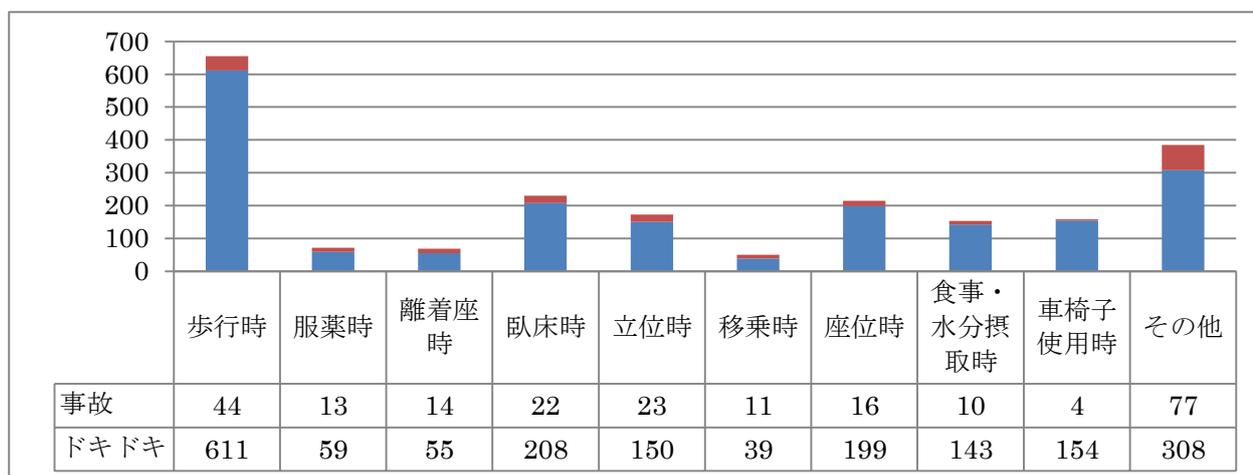
②発生場所別件数

居室ではスタッフの目に届きにくく密室性が高いことから、ドキドキ報告書がリビングに比べて少ないと考えられる。これは日中、居室内で過ごされるゲストが多いことが起因していると思われる。



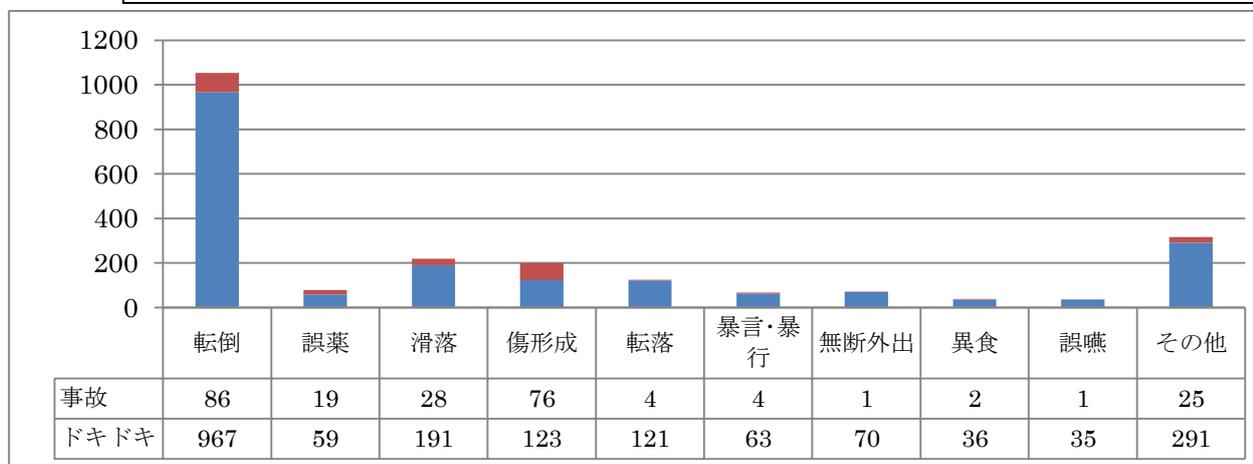
③発生状況別件数

歩行時の事故報告書が群を抜いて多く、その次に立位時が多くなっている。これは歩行ができるゲストが多いというケアハウスの特徴として表れている。



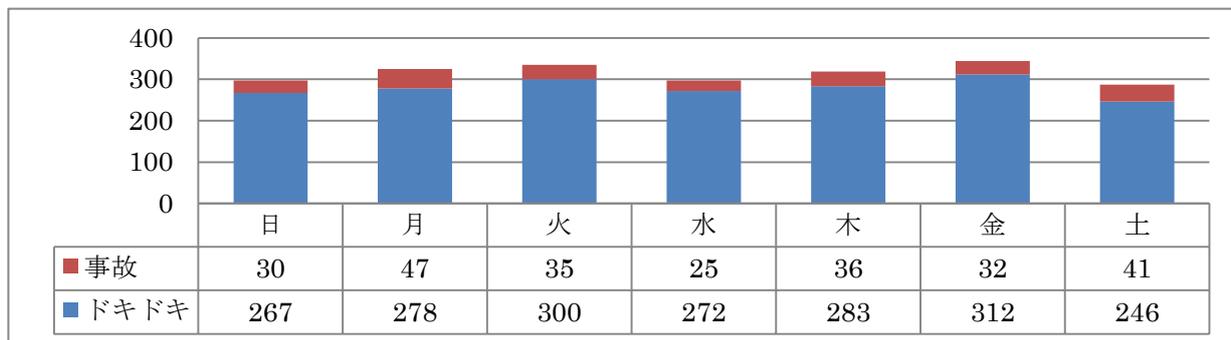
④発生内容別件数

転倒事故、ドキドキ報告件数が群を抜いて多い。これは上記にも記載したが、歩行ができるゲストが多いことが考えられる。傷形成においては皮膚が弱いゲストがおられ、事故が増加したと考えられる。



⑤曜日別件数

曜日別に大きな差はないが、土曜日、日曜日においてはパート職員が出勤しておらず、出勤人数に差があることからドキドキ報告書が減少したと思われる。



⑥時間帯別件数

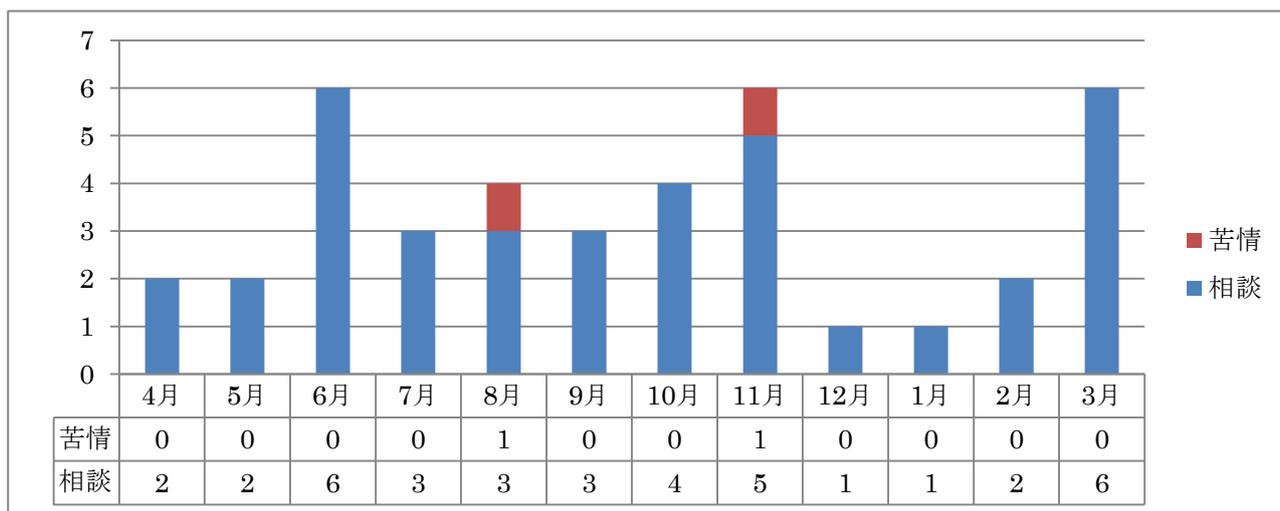
時間帯別ドキドキ報告件数においては、日勤帯に比べ夜間はスタッフ数が減少することや、ゲストの活動時間帯でないことから朝・昼に比べ少なくなっている。
事故に関しては日中が最も多く、ゲストの活動時間に起因している。

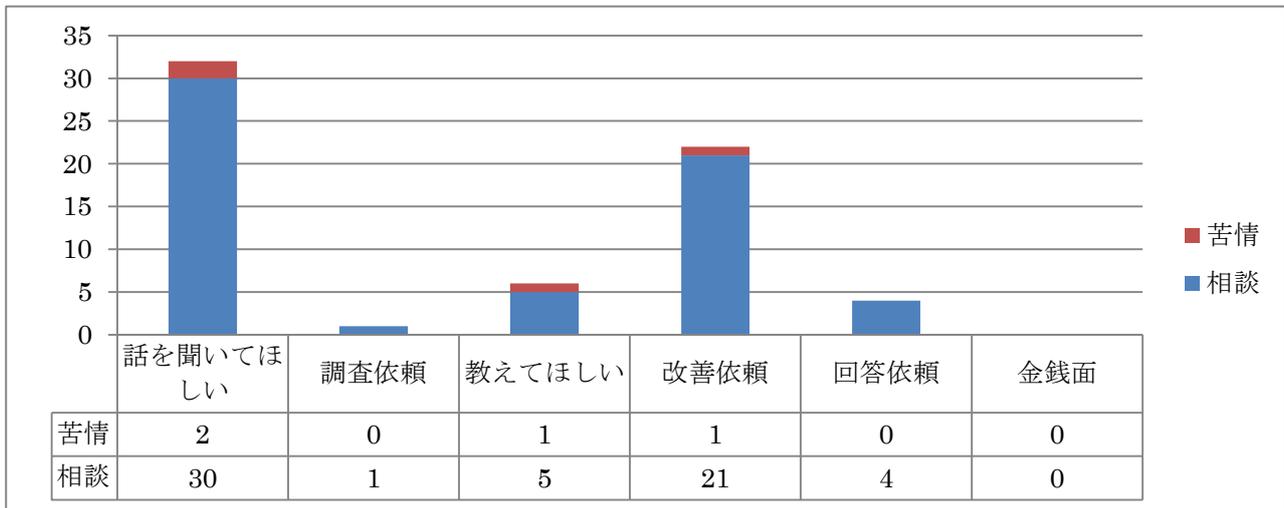
9 < 苦情・相談結果報告 >

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	平成 27 年度			平成 28 年度		
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情
	40 件	2 件	38 件	40 件	2 件	38 件





○主な内容

ゲスト・ご家族に対する報告・連絡・配慮が足りないため、不快な思いをさせた事例、またゲスト同士のトラブルによる事例、施設での取り組みや行事に対する不満がみられた。

○まとめ

ご家族・ゲストに対して、些細な報告や連絡を怠ってしまったがために不快な思いをさせてしまっているケースが多々みられた。また10月に行った感謝祭については、開催時期や使用した椅子（パイプ椅子）に対しての意見もあり、準備段階で内容を密に精査していればよかったのではと悔やまれる。入居ゲストから、他入居ゲストに対しての相談は15件みられた。認知症を有する方、身体に障害を有する方等、様々な方が施設にはご入居されているため、常に職員がゲスト間の人間関係に目を配り、トラブルを回避できるよう努めていきたい。

10 《総括》

経営面においては在籍率89.8%、在園率85.6%と、いずれも直近7年間において過去最低の数値となってしまった。年度内で18名の退去者がおられ、内訳は死亡退去9名、他施設入居6名、在宅復帰1名、長期入院における退去者が2名となっている。他施設入居の理由としては金銭的な理由が主となっている。新規入居者は10名で、病院やケアマネジャーからの紹介の他、新聞広告や折り込みチラシの配布、見学説明会を開催し入居に至った方もおられたため、継続していく必要がある。

コンスタントに入居の問い合わせや見学はあるが入居に至らないケースが多々みられ、金銭的な負担がネックとなっているように思われる。また、西区内においては人口に対する高齢者施設の数が飽和状態となっており、他施設とのサービスの差別化や、近隣の他区や他市に営業を行う必要性が感じられた。

ケア面においては遠藤メソッドの理解を深めるために研修を行い、介護技術標準を作成する視点は養えてきたと思われる。今まで個人の経験や暗黙知で行っていた介護を具体的に見える化し、新人職員もベテラン職員も同じ対応ができるよう更に理解を深めていきたい。